

# 医療被ばく低減は誰の責任？

**目標：各県に5施設、全国で250施設以上！**

**「医療被ばく低減施設」を平成32年診療報酬改定までに**



← **このライフジャケットは適切ですか？**

子どもの命を守る目的の救命胴衣が、その体格に合ってません。医療において、診断目的に合った条件で撮影されているでしょうか？

→ **その撮影線量は適切ですか？**

まさに「医療被ばく低減施設認定」は、この振り返りの機会であり、この事業の目的は、以下のように定義されています。

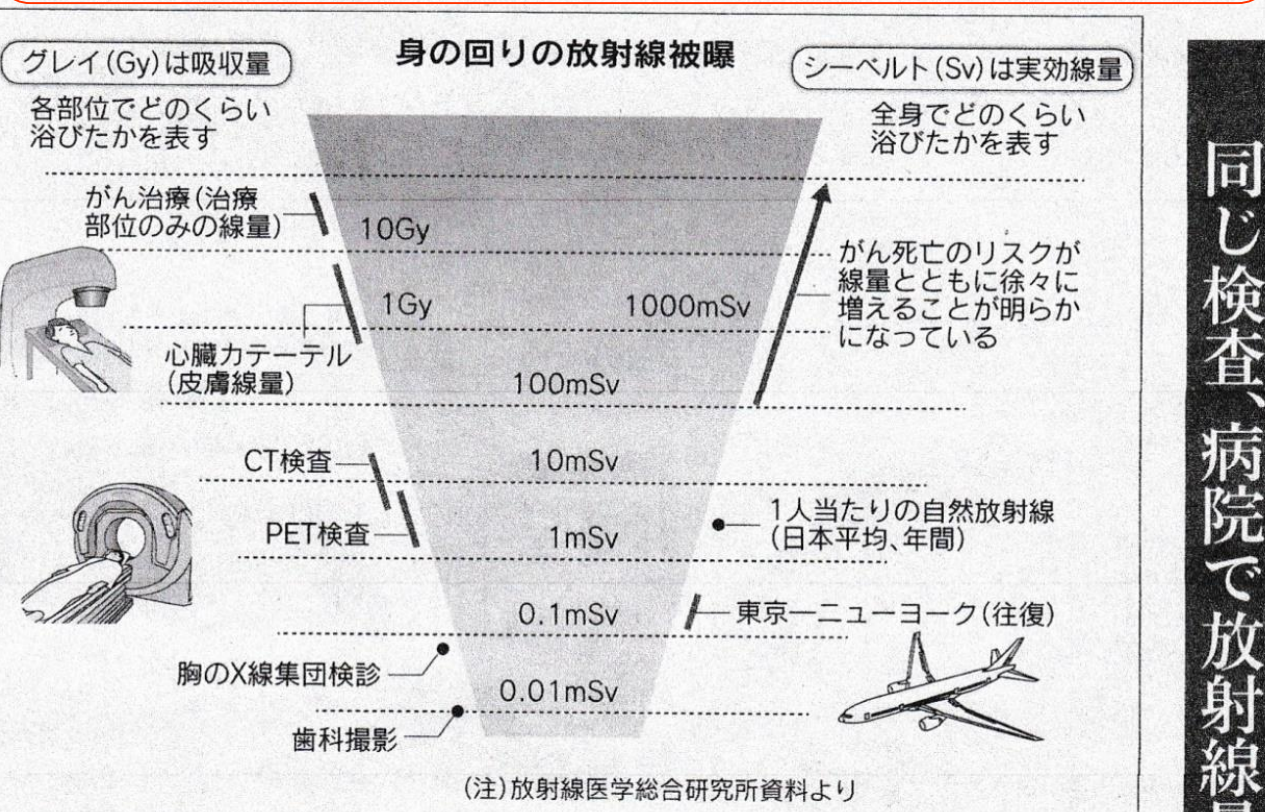
## 医療被ばく低減施設認定の目的

医療用放射線利用による医療被ばくを低減している施設（病院など）が、この認定に向けて準備を行うことで、あらためて医療被ばく低減への取り組みを振り返っていただく。

国民に「医療被ばく低減（医療被ばくの適正化）」という新たな情報を提供することができ、結果として医療提供側と患者の双方に大きなメリットとなる。

## 国民が望む医療被ばくのか考え方

### 医療被曝 低減に挑む



指針が目安に・機器も向上

日本経済新聞 2015年9月6日



同じ検査、病院で放射線量に差

## 審査項目一覧(自己調査表も同様)

### 1.行為の正当化

目的：医療における放射線利用に当たり、照射による便益が損害より大きいことが明らかで代替手段のないことを担保する手段を講じている、または実践していることを評価する。

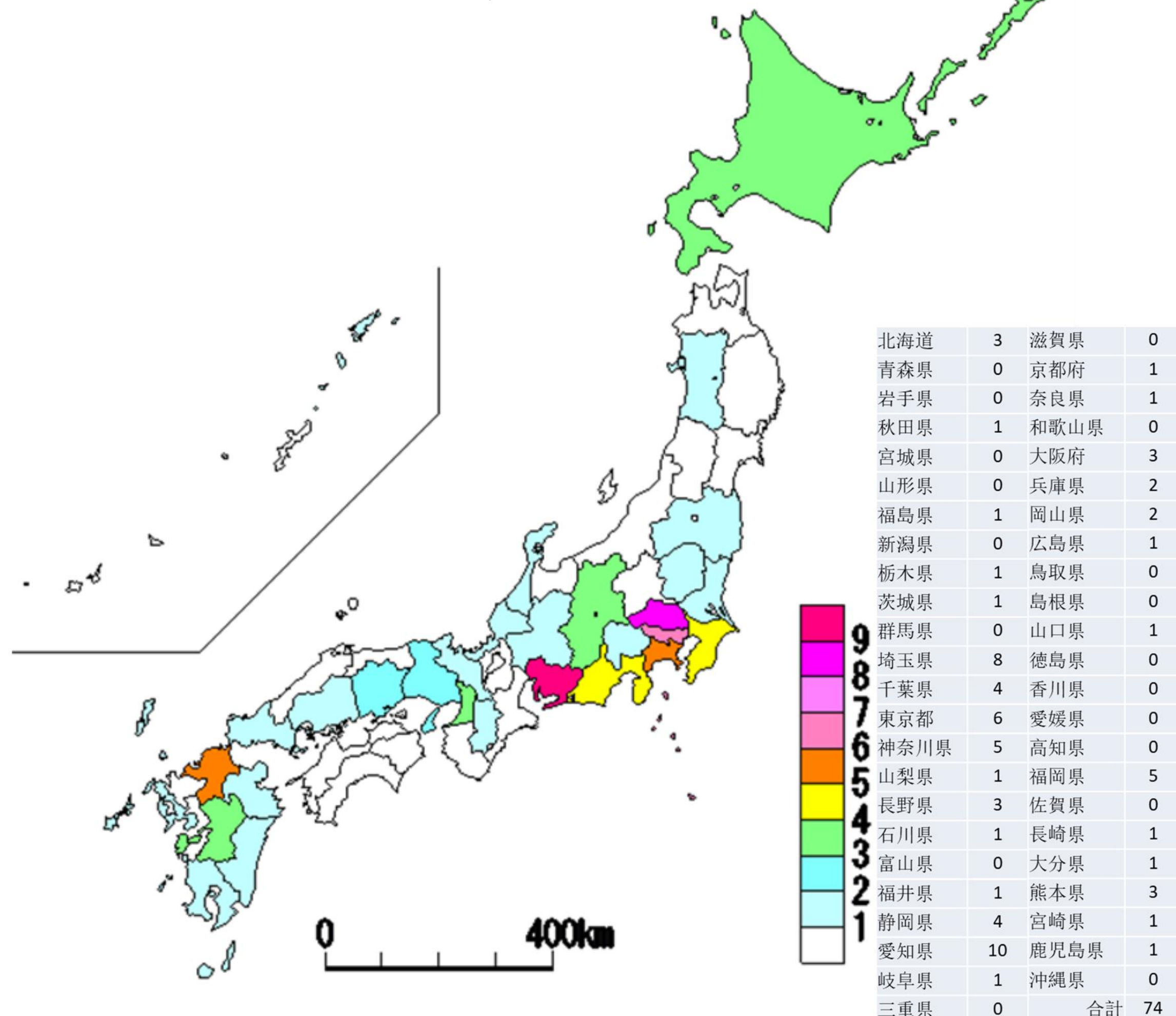
- 1-1.検査・治療依頼書の適切性
- 1-2.研修・教育訓練など職員等に対する啓発
- 1-3.患者対応の適切性

### 2.防護の最適化

目的：放射線被ばくの正当化が判断されたうちは、合理的に可能な限り被ばくを低減し必要な効果を得る手段を講じる。ICRP Pub.26の“ALARA(as low as reasonably achievable)”の思想を遵守し、最適な撮影線量を定めて実践しているかを評価する。

- 2-1.検査・治療手順の明確化と医療被ばくガイドライン(DRLs)との比較
- 2-2.患者の被ばく線量の把握・管理
- 2-3.医療被ばく低減の取り組み
- 2-4.既往・アレルギーおよび妊娠等の患者情報の確認
- 2-5.放射線防護の最適化の恒常的実践
- 2-6.放射線関連装置の保守管理
- 2-7.放射線防護関係法令の遵守

## 全国 医療被ばく低減施設の分布



平成29年8月1日現在

## 必須評価項目

- 2.1.3 検査・治療ごとにガイドライン(DRLs)との比較検討を行っている
- 2.2.1 患者の被ばく線量に関するデータを評価し把握している
- 2.3.1放射線管理士が在籍し、主導的な被ばく管理を担っている
- 2.6.6放射線機器管理士が在籍し、適切な管理が行われている



日本診療放射線技師会の認定資格

## 医療被ばく低減施設の認定取得に向けて

### 1.実践医療被ばく線量評価セミナーの開催

- 平成29年 6月18日 定員48名 (終了)
- 平成29年11月12日 定員48名

### 2.医療被ばく低減施設認定取得セミナーの開催

- 平成29年10月15日 (東京) 定員50名
- 平成29年12月17日 (大阪) 定員50名

### 3.医療被ばく適正化講習会の開催

- 平成29年10月15日 (愛知) 定員100名
- 平成29年11月 5日 (香川) 定員100名
- 平成30年 1月27日 (大分) 定員100名

**医療被ばく低減施設認定を受審してみませんか？**

公益社団法人日本診療放射線技師会